

## 仕事と生活の調和に係る取組と課題について

団体名： 情報労連

### 1. 現行の取組

貴団体における仕事と生活の調和に係る現行の取組をご紹介ください。

参考資料（情報労連 21世紀デザイン）を別送しております。

## 2. 取組を進める中で障壁や隘路と感じていること

当産別では産別ビジョン「情報労連 21 世紀デザイン」を策定し、仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）の実現に向けて取り組みを進めてきているが、取り組みを進める上で、もっとも難しいのが個々人の意識改革・啓発である。

これまでの仕事オンリーから家庭・地域へという変革は、価値観の大きな変化を要求しており、掛け声だけでは遅々として進まない。

当産別では、地域活動・社会貢献活動等の様々な活動ステージを用意し、まずは体験・経験することによる新たな価値観への気づきを支援することから始めている。

また、企業内における成果主義の導入は、共同作業・分担・育成といった、従来の日本企業が誇っていた分野を衰退させたのではと考えている。

成果を求める一方で、ワーク・ライフ・バランスの実現を強いることは、極めて困難ではないか。

適切な成果主義について否定するものではないが、多くの企業で適切な運用がなされていない実態もあり、長時間労働の原因ともなっていると捉えている。

## 3. 取組をさらに進めるという観点から政府・地方公共団体に期待すること（要望等）

個々人の意識改革・啓発を促す上で、政府のリーダーシップによるアナウンスは極めて重要であり、継続的かつ効果的なアナウンスの実施を望みたい。

憲章・行動指針に定められた、国民の取り組むべき課題であるとした「サービスの背景にある労働に配慮する」について、非常に重要なテーマであり、メッセージだけではなく、具体的な行動へとつなげる施策展開を望みたい。

現在、成果主義に基づく賃金・人事制度は、広く多くの企業へ浸透しているが、生産性の向上や企業力の向上等にむすびついているのか、ワーク・ライフ・バランスの実現には、同じ職場で働く労働者間の協力・理解は不可欠であり、現行の成果主義が障害となっていかが、等について点検する必要がある。

## 4. その他

特記事項があれば記載願います。

# 情報労連21世紀デザイン

『暮らしやすい社会』をめざす  
情報労連の政策と新たな行動



「21世紀デザイン」の考え方を組合員一人ひとりが明確に理解し、新しい行動への意欲をハート形の横顔で表現した。「21CD」と「JOHO-ROREN 21st CENTURY DESIGN」は、情報労連運動の方向性と政策の広がりを表している。



情報産業労働組合連合会(情報労連)  
〒101-0062  
東京都千代田区神田駿河台3-1-6 全通通労働会館  
TEL: 03-3219-2231 FAX: 03-3253-3268  
URL: <http://www.joho.or.jp/> e-mail: [info@joho.or.jp](mailto:info@joho.or.jp)

# 情報労連21世紀デザイン

## CONTENTS

はじめに	01
情報労連の21世紀デザインって?	02
なぜ『21世紀デザイン』なのか	04
情報労連がめざす社会像	06
暮らしやすい社会をつくる3つの政策と1つの行動	08
政策-1 総合労働政策	09
「時間主権」	10
「多様な正社員の実現」	12
「CSRの推進」	14
政策-2 社会保障政策	16
政策-3 情報福祉政策	18
情報労連の「新たな行動」	20
21世紀デザインの具体的な取り組み	24
時間主権の確立に向けて	24
多様な正社員の実現に向けて	25
情報労連の求めるCSR(1)	26
情報労連の求めるCSR(2)	27
情報労連の求めるCSR(3)	28
情報労連の求めるCSR(4)	29
情報労連の求めるCSR(5)	30
社会保障政策(1)	31
社会保障政策(2)	32
社会保障政策(3)	33
社会保障政策(4)	34
IT政策(1)「連合要求と提言」から	35
IT政策(2)「連合要求と提言」から	36
IT政策(3)「連合要求と提言」から	37
IT政策(4)「連合要求と提言」から	38
これまでの経過と今後の展開	39

## はじめに

私たちは、情報労連の運動の方向性と政策の基本スタンスの確立に向けて、2003年7月に「情報労連21世紀デザイン研究会」を立ち上げて以降、約3年間にわたり、各政策委員会における論議、政策キャラバンや政策討論集会等を通じた論議をはじめ、中央委員会での中間報告確認など、『情報労連21世紀デザイン』の確立に向け取り組んできました。

そして、研究会報告の確認から2年間、構成組織・各加盟組合の皆さんと丁寧な論議を行うことを基本に取り組みをすすめるとともに、これまでのさまざまな意見や論議をふまえ、ここに『情報労連21世紀デザイン』を確立するに至りました。

今後は、総合労働政策をはじめとする三つの政策と、自らの行動を基本とする一つの行動の着実な前進を図っていくことが重要となります。また、社会・経済の変化に対応しつつ、常に「暮らしやすい社会」を実現する政策と行動たるべく、内容を補強していくことも求められます。

今日現在、すでに先行かつ試行的な取り組みとして、教育機関との連携をスタートしています。また、NPOなどとの連携による活動基盤の拡大についても具体的な連携方法に関する論議を開始します。

情報労連本部は、推進体制の整備を図るとともに、この『情報労連21世紀デザイン』の着実な前進に取り組んでいくこととします。各加盟組合においても、それぞれの実情に即した目標を設定し、『情報労連21世紀デザイン』をキャッチアップする積極的な取り組みの展開を要請します。

# 情報労連の21世紀デザインって?

情報労連が  
めざす社会へ  
一人ひとりが自覚して  
できることから  
行動しよう!



これまでの社会は

経済的な  
豊かさのみを  
追求してきた  
「便利な社会」

社会から見えない労働組合運動  
企業内・正社員の中だけの運動

経済的な豊かさ(成功)を求めるあまり、男性の過大な  
企業内社会への依存によって地域コミュニティなどの  
関係が疎遠。

男性は仕事、女性は家庭・地域社会といった性別役割  
分業の固定化が進展。

企業の規模や財務基盤の違いによって、賃金や労働時  
間、福利厚生などに格差。

会社への従属を余儀なくされる正社員か、不安定で低  
い処遇の非正規社員の拡大と分化。

利益を追求するあまり、過労死や企業の不祥事など社  
会病理の顕在化。

組合員が「市民」として行う  
活動の支援  
産別組織の特性を活かした活動  
労働組合の特性(地域に密着した活動)  
を活かした活動  
連帯拡大による活動ベース  
(プラットフォーム)の拡大

一つの行動

私たちのめざす社会は

「自立・自律」と  
「協力・協働」に  
よって実現する  
暮らしやすい社会

組織内外の  
人々との連携・協働を通じ  
社会から期待され、  
共感される運動を  
展開する



暮らしやすい  
社会をつくる  
3つの政策



3つの政策

1

総合労働政策

時間主権の確立  
多様な正社員の実現  
CSRの推進

2

社会保障政策

個々人の選択可能な生き方の幅  
の保障の実現をめざします。

3

情報福祉政策

安心、安全など、多様な分野で暮  
らしの質の向上に資するITの幅  
広い活用をめざします。

なぜ  
『21世紀  
デザイン』  
なのか

# 経済成長至上主義と 企業内社会中心



## 経済成長至上主義

「経済的な豊かさ(成功)=幸福」との価値観のもと、一貫して「経済成長」という目標に向けて、国家・国民が一体となって邁進した時代。

経済的な豊かさ(モノの豊かさ)という価値観の中で、個々人が受動的に便利さを追求してきた経済成長至上主義に編成された。

## 企業内社会中心

社会保障システムが企業や家庭に依存するなど、社会の仕組み・制度・価値観の多くが「企業中心」に編成された。

企業の規模や財務力による賃金・労働時間、インフォーマルな福祉の質などにおいて、大企業と中小企業の間で格差をもたらした。

男女の役割分業を背景とした男性の過度な企業内社会への依存が強まる。

## その結果、顕在化してきたものは

社会的(企業内)にもたらされてきた富・価値・機能などの享受が困難となった。

物質面での「豊かな社会」の追求、その源泉であった需要自体の成熟・飽和を招いた。

男性の過度な企業内社会への依存は、地域コミュニティ等から疎遠となった。

過労死や企業不祥事といった社会病理の顕在化を招いた。

企業規模間格差や地域間格差、さらには貧困や格差拡大など二極化が進展した。

年金や医療費負担など社会保障の将来不安、地球温暖化問題、膨大な財政赤字など、日本社会を覆うあらゆる面での閉塞感を招いた。

労働組合においては組織率の低下をはじめとする運動の先行きに対する不透明感が増している。

20世紀的な社会のあり方や価値観からの根本的な転換

経済的な豊かさ(成功)を追求する『便利な社会』からの転換



# 個々人の自立・自律と 協力・協働にもとづく 暮らしやすい社会

## 『暮らしやすい社会』とは

経済的な豊かさだけでなく、多様な価値観が尊重されること。

個人のレベルにおける、自立・自律を前提とした自分らしさ、自己実現、多様な生き方ができる社会。

性別や年齢の違い、障害の有無、貧富の差に拘わらず、「ケイパビリティ」が誰にでも平等に保障される社会。

多様な生き方の選択肢の拡大と、家庭生活や地域コミュニティなどの活動に向けた時間の創出ができること。



ケイパビリティって？

「性別や年齢の違い、  
障害の有無、貧富の差に拘わらず、誰もが  
選択可能な生き方の幅」を意味する言葉なんだ。  
つまり、「行きたいところに移動できる」  
「衣食住が満たされている」「自尊心をもって社会生活に  
参加できる」など、人間としての基本的な生活をおくる上での  
社会的条件や能力は、本来誰にでも平等に  
保障されなければね。

だけど、現実には  
障害者や高齢者の行動の障壁(バリア)となる  
街のつくり、女性の社会参加や能力発揮を阻害する  
慣習・制度は今もなお残っているよね。  
また、親の所得や職業の違いによって学習意欲にも格差が生じ、  
教育の階層化が進行しているといった  
指摘もあるんだよ。

だから、私たちがめざすべき  
『暮らしやすい社会』では、  
「ケイパビリティの保障」は  
基本的な条件になるんだ。

